

# 自己点検・自己評価報告書

平成 29 年 3 月 31 日現在

International Study Institute 中京

平成 29 年 3 月 31 日作成

# 目 次

<b>第 1 設置者及びマネジメント</b> .....	1	<b>基準 6 法令の順守等</b> .....	21
<b>基準 1 理念・教育目標</b> .....	1	6-1 法令の順守 .....	22
1-1 理念・目的・育成人材像などが明確に定められているか .....	2	<b>第 2 運営に関する事項</b> .....	23
1-2 教育目標が明確に定められているか .....	3	<b>基準 7 運営全般</b> .....	23
1-3 学校の将来構想を抱いているか .....	4	7-1 組織的な運営 .....	24
1-4 理念と教育目標が教職員、学生に周知されているか .....	5	7-2 納付金 .....	26
<b>基準 2 組織</b> .....	6	7-3 情報の共有化及び発信 .....	27
2-1 組織体制 .....	7	<b>基準 8 学生募集</b> .....	28
2-2 教員組織 .....	8	8-1 募集方針 .....	29
2-3 事務組織 .....	9	8-2 募集活動 .....	30
2-4 採用と育成 .....	10	8-3 入学選考 .....	32
<b>基準 3 財務</b> .....	11	<b>基準 9 教育活動</b> .....	33
3-1 財務状況 .....	12	9-1 教育計画 .....	34
<b>基準 4 教育環境</b> .....	13	9-2 実施 .....	36
4-1 校地・校舎 .....	14	9-3 成績判定 .....	39
4-2 施設・設備 .....	15	9-4 授業評価 .....	40
<b>基準 5 安全・危機管理</b> .....	18	<b>基準 10 学生支援</b> .....	41
5-1 健康・衛生 .....	19	10-1 支援体制 .....	42
5-2 危機管理 .....	20	10-2 日本社会を理解し、適応するための支援 .....	43
		10-3 生活面における支援 .....	44
		10-4 進路に関する支援 .....	46
		10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援 .....	48

<b>基準 1 1 教育成果</b> .....	<b>50</b>
11-1 成果の判定 .....	51
11-2 卒業生の状況の把握.....	52

# 第 1 設置者及びマネジメント

## 基準 1 理念・教育目標

点検大項目総括	課題及び改善内容
<p>●ISI グループの理念 「私たちは、グローバル人材育成のための教育環境の創造を通じて、人々の夢の実現と国際社会の発展に貢献します」</p> <p>●ISI の教育方針 【国際理解を深める教育——国際力】 世界各国の学生との異文化交流で「国際交流」を深め、グローバルに活躍できる人材を育てます。</p> <p>【理解と納得の日本語教育——日本語コミュニケーション力】 目的に合わせ「読む・聞く・書く・話す」の技能と関連付けながら日本語運用能力を総合的に高めます。</p> <p>【社会人としての総合的な力を高める教育——人間力】 社会や企業の中で自立した一人の社会人として力強く生きていくための総合的な力「人間力」を学びます。</p> <p>●本校の特色は何といても在校生の多様化にある。2017年夏には京都への学校移転を予定しており、このグローバルな環境を活かして日本語コミュニケーション力の養成を行い、社会に貢献する人材の育成を実現できる点が第一の特色である。</p> <p>●本校の将来構想は、学習者と社会の幅広いニーズに応えるための学校運営をめざし、入口から出口を一貫した理念で経営していく方針である。また大学・大学院・専門学校、企業との連携を深め、より高い次元でのグローバル人材育成教育機関を目指した将来構想を持っている。</p>	<p>●International Study Institute 中京の歩み 【第一フェーズ】 2003年、International Study Institute 中京として岐阜県岐阜市に設立、定員100名からのスタートとなった。</p> <p>【第二フェーズ】 2009年、設置法人を(株)アイ・エス・アイへ変更、翌2010年、定員100名から150名へ増員。受け入れる国籍をアジアのみならず多国籍へ拡大。</p> <p>【第三フェーズ】 2014年、教育カリキュラムの全面見直しを行い、宿題、テスト等、学生の進路に即した(特に非漢字圏の大学進学を意識した)カリキュラム内容へと変更。</p> <p>【第四フェーズ】 2016年、カリキュラム改訂後の学力向上結果も実績が出てきた。また自動車系の進路選択者の増加から選択授業の中で中日本自動車短大との連携カリキュラムにも挑戦し、進学実績も出た。</p> <p>【第五フェーズ】 2017年、校舎の老朽化と今後の拡大を視野に、校舎の京都移転を決定。教育カリキュラムの更なる充実と、教育環境の充実を図り、定員150名から225名へ増員申請中。自己点検・自己評価の結果を踏まえ、中長期ビジョンの策定を行った。</p>

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 1-1 理念・目的・育成人材像などが明確に定められているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	5	明確に定められている。	学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などは、当校のホームページ、入学案内書に明示されている。	非常勤講師にも浸透させているが、新規採用などもあるので適宜、それらの意識統一などを研修などで行っていく。	学校案内チラシ ホームページ
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	5	具体的な計画・方法を持っている。	2015年度から2017年度の中期ビジョン戦略マップで、戦略目標・数値目標を達成するためのKPIを確立している。	具体的な計画・方法は実行を伴わないと意味がないので、その実行力をきちんと人事評価することでPDCAサイクルを循環させる。	『2015年－2017年度中期計画』
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	5	理念・目的・行動指針は学園の普遍的な原理としているため、時代の変化に対応した内容は中期計画に反映するようにしている。	3か年に1回時代の変化に対応し、中期計画を立て、本校のバランススコアカード、戦略目標を立てている。	外国人留学生が多数在籍する本校であるが、法務省の政策や社会のニーズなど、常にアンテナを高く張る必要がある。	『2015年－2017年度中期計画』
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	5	教職員に周知され、学外にも広く公表されている。	教職員には学内に理念が記載された額を掲示しており、学外には学校案内書・ホームページで広く公表している。	多言語での学外への公表が必要であり、全世界に発信する必要がある。	学校案内書 ホームページ

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
理念・目的・育成人材像が抽象的になるのを避けるため、9項目の行動指針を策定し具体的な実践をするようにしている。並びに中期計画では上記の理念等を普遍の原理とし、バランススコアカードに基づく戦略マップに落とし込み、戦略目標・数値目標・KPIを明確にし、一人一人の教職員がそれに沿った形で個人目標を半期ごとに立てるようにし、人事考課を行っている。	非常勤講師にも会社理念、目的の浸透を図る方法を検討しなければならない。随時新しい職員を採用する現場としては、最初だけでなく途中でのそれらの意識統一をいかに行うか、特に検討が必要だと思う。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 1-2 教育目標が明確に定められているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
1-2-1 学校の特色として挙げられるものがあるか	5	地方都市の特性を生かした地域国際交流を積極的に取り入れ、日本人とより交流できる機会、日ごろの日本語教育の進捗を計れる機会を作ることにより単にテキストに沿った勉強のみならず生きた日本語の勉強をすることが出来る。	日本人との国際交流イベントが、1年間に固定的に7回あり、そのうち1回は、公立の地元小学校との全校生徒同士による国際交流となっており、地域をあげてのビックイベントとなっている。	入学してくる期により、国際交流イベントの大きさに差があり、全学生が平等にその特色を体験できるとは限らないこと。 それについては、今後イベント内容の要検討。	ホームページ Facebook

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
国際色豊かであるという学校の特色を生かし、地域住民との国際交流を通じ、生きた日本語指導が出来る、とてもいい環境であると思う。	国際交流の機会はとても多いが、学生の性格によってはその機会を思う存分生かす学生と、そうでない学生の両極化がどうしても顕著に出る。 日本人との交流はどの学生にとっても学習効果が高く、そのような試みをより多く実施できるよう今後も検討していきたい。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

### 1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
1-3-1 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	5	時代の変化に合わせた中期計画を3年ごとに策定している。	時代の変化に合わせて3年ごとに中期計画を策定し、そこから戦略マップ・戦略目標・KPIそして個人目標へと落とし込んでいる。	特に外国人留学生の進路決定については年々変化をしており、その動きを敏感にキャッチし、募集活動に活かすスピード感が求められる。	『2015－2017年度中期計画』

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
学校の今後の展望を考え、京都への移転を決定した。 岐阜で行ってきた様々な国際交流を始め、各種アクティビティに更に色をいれ、日本文化を様々な形で学生へ提供できるよう、将来的に更に検討したい。	進学したい学生と、そうでない学生のカラーわけをしっかりと、それぞれのニーズに合った学生への日本語指導が出来る環境を積極的につくれるよう検討したい。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

**1-4 理念と教育目標が教職員、学生に周知されているか**

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
1-4-1 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	4	職員会議、講師ミーティング等で共有されている。	職員会議、講師ミーティング等で議事に上げ、それについて話している。	話はしているものの、認識として甘い部分があるためもう少しやり方を検討すべきだと思う。	『2015-2017 年度中期計画』 講師ミーティング資料

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
毎年、年に2度行われる全社会議の決定事項を常勤職員だけでなく、年4回行う非常勤講師ミーティングの際に、非常勤講師に対してもしっかりと落とし、学校として同じ方向を見て学生指導ができるよう、情報共有に努めるようにしている。	そのミーティングに欠席する非常勤講師や途中入社 of 非常勤講師に対しての共有に話すタイミングにより温度差が生まれる。また、進捗の確認など意識して行っているが、それぞれの講師のキャリアによって受け取り方がずいぶん違っているように思われる。この点を今後どのように指導を入れるか、更に検討が必要だと感じる。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 基準 2 組織

点検大項目総括	課題及び改善内容
<p>○組織体制については、設置代表者及び経営担当は基準要件に適合しており事業規模に応じた組織体制になっているが、言語対応可能な組織になっていない。言語については、在籍学生の先輩学生に通訳を頼んで行っている現状がある。せめて国籍比率の高い言語対応者の採用を検討しなければいけないと感じる。</p> <p>○教員組織については、校長、主任教員及び教員は基準要件を備えており、職務内容及び責任と権限が明確に定められてはいるし、職務分掌と責任がステージごとに明確にされている。ただし、職員自体がその責務を完全に理解し業務を行っているか？という部分で認識が甘い部分がある。</p> <p>○事務組織については、生活指導責任者、入管事務担当者等を含む各業務の担当者が特定され、その職務内容及び責任と権限、承認プロセスが明確に定められている。各業務の担当者が学生及び教職員に周知されているため、学生は混乱なく職員に相談できる体制となっている。また、入管申請取次者、防火防災管理者も設置し然るべき届出、対応を滞りなく行っている。</p> <p>○採用と育成については、日常的に非常勤講師の採用は行っているが、有資格者での採用にはこだわっている。また、育成についても雇いっぱなしにはせず、常に上のレベルを目指し各種研修会などを実施している。人事考課も常勤のみでなく非常勤講師に対してもしっかりと制定されており、それぞれが頑張れる体制となっている。</p>	<p>○言語対応者が不足しているため、この点に関して積極的に改善していかねばならないと考える。</p> <p>○それぞれの職員の基準要件をきちんと備えてはいるが、それぞれが自分の権限の把握がきちんとされているか、また、上のステージになるための努力、上長からの指導が徹底されておらず、後追いとなっている。人事考課の仕方の勉強会を主任レベル以上では行っているが、一般職員まではしていないため、この辺りもしっかりと全職員が理解できるよう、指導することを考えたい。</p> <p>○勤務人数が少ないため、すべての作業を一通り全部出来る職員が何でも学生からの質問を受け答えでき、学生の満足度には繋がっている。しかし、教務が事務を、事務が教務を、それぞれの仕事内容が分かっていない部分で溝があり、この辺りが解決するともっとスムーズに仕事が運べると感じる。</p> <p>○採用した職員が気持ちよく勤務できるように環境を整えてはいるが、非常勤講師一人ひとりが何を考えて、学校のために授業をするのか、意識統一を図る試みはしているが、完璧ではない。この辺りを共有することでもっといい学校作りが出来るのではないかと考える。</p>

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 2-1 組織体制

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-1-1 設置代表者及び 経営担当は基準要件に 適合しているか	5	基準要件に適合している。	法務省 HP,また(一財)日本語 教育振興協会の基準に基づ いて選定している。	特になし	日振協申請書類
2-1-2 事業規模に応じ た組織体制になっている か	5	基準要件に適合している。	法務省 HP,また(一財)日本語 教育振興協会の基準に基づ いて選定している。	今後増員検討をすることに なる場合、準備基準にあった 人事体制にすることを随時 検討する。	人事組織図
2-1-3 受入れする学生 の言語対応可能な組織 になっているか	2	十分とはいえない。	多国籍の学生在籍となっ ているが、それぞれの国の言語 が話せる職員が不在である。	不足している部分の補充は 検討する。	人事組織図

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
今現在の定員に対して、職員は充足している。職員は長期間雇用されている十分な経験者であり、様々な対応が出来る。	今後、組織を大きくする予定であるため、随時、新入社員に対しての研修を含め、今の学校質を落とさないための努力を随時するべきであると考えている。

最終更新日付

2017年3月31日

記載責任者

井尾 美穂

## 2-2 教員組織

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-2-1 校長、主任教員及び教員は基準要件を備えているか	5	基準要件を備えている。	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて選定している。	新規採用時も基準に該当する職員の採用を心がける。	日振協提出書類 入管提出書類
2-2-2 校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限が明確に定められているか	5	責任と権限が、明確に定められている。	社内で行う人事考課にもそれぞれの役職に伴う職務内容の範囲が明示されている。また、社内システム(E-System)、職務分担表にも役職ごとの権限が定められている。	時代、また学校規模による職務権限を随時見直し、職員への共有を図っていかねばならないと感じる。	非常勤講師マニュアル 職務基準書 人事評価表 AFシステム
2-2-3 職務分掌と責任がステージごとに明確にされているか	5	ステージごとに明確にされている。	社内で行う人事考課にもそれぞれの役職に伴う職務内容の範囲が明示されている。また、社内システム(E-System)、職務分担表にも役職ごとの権限が定められている。	時代、また学校規模による職務権限を随時見直し、職員への共有を図っていかねばならないと感じる。	職務分担表 人事評価表

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
それぞれ、決められた基準要件を備えた職員を在籍している。それぞれの役割もしっかりと社内的に職務基準も決められている。ステージも明確にされており、組織的に経験を積んで上のステージになれる社内システムにもなっている。	それぞれの役職の職員が自分の役割をよく理解しており、自分の職務権限内での職務にしっかりと当たっている。経験者もとても多くなったので、今後はその経験を生かし、さらに上の立場での仕事ができるよう、研修などソフトの面の検討が必要だと思われる。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 2-3 事務組織

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-3-1 生活指導責任者、入管事務担当者等を含む各業務の担当者が特定され、その職務内容及び責任と権限、承認プロセスが明確に定められているか	5	基準要件を備えている。	法務省 HP, また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて選定している。	常勤職員は特に全員が出来ないといけないと考えるため今後ジョブローテーションを含め経験させる検討が必要。	日振協提出書類 職務分担表
2-3-2 各業務の担当者が学生及び教職員に周知されているか	5	それぞれにしっかり周知されている。	入学式、オリエンテーションで職員紹介をしっかりと行い、学生に周知している。教職員に対しては講師ミーティングで周知している。	周知はしていても、特に学生が分かっていない場合があるため、周知方法を今一度検討する必要がある。口頭周知で書面ではないため要検討。	業務分担表
2-3-3 入管申請取次者、防火防災管理者を設置しているか	5	それぞれに設置している。	それぞれ、しっかりと講習を受け、その担当者が届出を行い職務についている。	初回講習を受けっぱなしになっているため、適宜講習の受けなおしをして意識を薄くさせない努力が必要。	入管申請取次者証明書 防火防災管理者修了書
2-3-4 職務分掌と責任がステージごとに明確にされているか	5	明確にされている。	職務分担表に明示されている。	今に満足せず、適宜見直しが必要。	職務基準書 人事評価表

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
それぞれ、しっかりと担当者が設置されている。その職務内容についてもよく理解しており、学生たちを生活の面からサポート出来る体制になっていると思う。	生活指導者、入管事務担当者等、学生の生活に絡む人事についてはしっかりと明確に役割が決まっている。しかし、この仕事は学生にとっては非常に重要な担当者であるため、役割についていない職員でも一通り担当できるよう、常に意識しながら体制を再検討するべきである。そのためにはジョブローテーションを積極的に行い、全員が当たれるよう努力すべきである。

最終更新日付

2017年3月31日

記載責任者

井尾 美穂

## 2-4 採用と育成

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
2-4-1 教職員の採用制度は整備されているか	4	ある程度整備されている。	適性検査 資格証の確認など	未経験者の採用時、本人の仕事に向かう姿勢で判断するが、人により曖昧である。	社内申請手順一覧
2-4-2 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	4	行われている。	求人、採用活動 採用後の研修システムが整備されている。	研修システムはあるが、全員が全部参加できているわけではないため今後、方法については要検討。	人材育成計画（管理部）
2-4-3 人事評価制度は整備されているか	4	人事評価制度は整備されている。	人事評価制度	評価基準の見直しの定期化と内容検討は必要であると感じる。	人事評価規定 給与規定 非常勤講師報酬制度
2-4-4 昇進昇格制度は整備されているか	4	昇進昇格制度は整備されている。	人事評価制度	評価基準の見直しの定期化と内容検討は必要であるとを感じる。	人事評価規定 給与規定 非常勤講師報酬制度
2-4-5 賃金制度は整備されているか	4	賃金制度は整備されている。	人事評価制度と給与規定	整備はされているが、時代に合わせ随時見直し等、検討が必要。	人事評価規定 給与規定 非常勤講師報酬制度

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
ISI グループの人事評価および賃金制度は労働基準法に遵守した制度となっており、十分整備されている。またグループウェアでも人事規定が閲覧可能となっており透明性がある。	人事評価についての見直し等、勤務者のモチベーションに繋がる部分であるため、随時見直し改訂を検討しながら、働く環境の整備をさらにしていかなければならないと感じる。また、非常勤講師の評価制度の一部見直しが必要なため、グループ校で改善点について協議が必要である。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 基準 3 財務

点検大項目総括	課題及び改善内容
<p>財務状況については、学生数も増えており、将来に向かって更に大きく展開する予定であるところから、長期的に学校の財務は安定しているといえる。予算・収支計画もしっかりと立てられており、毎月の幹部会議で予算乖離もしっかりと報告されている。</p> <p>会計事務所に会計監査を委託しており、適正な収支管理と責任体制が明確になっている。</p>	<p>本校は 2017 年に移転及び定員数 225 名に増員予定であり、校舎の収容定員からみても、短期生の受け入れ及び収容定員の更なる増は経営として早期に進めたい計画となっている。学校の安定した運営のために、今後は財務を含む現場の適正な監査を組織的に行っていききたい。</p>

最終更新日付	2017 年 3 月 31 日	記載責任者	井尾 美穂
--------	-----------------	-------	-------

### 3-1 財務状況

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
3-1-1 中長期的に学校の財務は安定しているといえるか	5	学生数も増えており、将来に向かって更に大きく展開する予定である。	岐阜で終了後、京都へ増員を同時にしながら移転する予定。	増員・移転することで校舎もリニューアルし、今後5年10年後を見据えた経営をするために、今投じる必要経費を十分に回収できる学校運営をしなければならないと考える。	決算書
3-1-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	年に2度行われる全社会議と毎月行われる幹部会議にて会社の予算・収支計画について、常に報告をしており現状把握が出来ている。	それぞれの会議報告にて現状の報告、把握を幹部で行っている。	予算乖離±10%での報告をしているが、その内容の妥当性の照合がしっかりされていないため、今後それをどの部門とするのか、検討が必要。	予算書 予実乖離分析報告
3-1-3 財務について会計監査が適正に行われているか	4	適正に行われている。	各部門にて処理されたものを本社で一括処理、その後会計事務所を通じ完成させ、社員に対してある程度ディスクロージャーされている。	会計監査は会計事務所に委託し行っているが、実態の妥当性確認に関しては現場に監査を入れ詳細確認を行うなどの対応が今後は必要。	会計監査報告書

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
会社の全部門が留学生を増やす検討をしているところで経営状態は安定しているといえる。学生数が増えるに伴い、10年先を見据えた予算立案が必要であり、さらに大きな設備投資を控えているため、その点については更なる詳細の試算が必須となると考える。	財務について、無駄を徹底的に省く検討を非常勤講師まで浸透させているのはいいが、物の支出を削るところで人的費用がかさむなど、事務の省略化を同時にもっと検討せねばならないと感じる。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 基準 4 教育環境

点検大項目総括	課題及び改善内容
<p>○校地・校舎に関しては、築年数も古く、耐震補強もされていないところから、地震などの対応は心配している。それも含め今後、京都へ移転することが決定しているため、対応していけるようにしたい。</p> <p>○施設・設備は概ね適合している。非常階段の補修や、図書の整備が遅れがちとなっていたが、この度京都へ移転することになったため、この点についても改修工事などで対応したいと考える。</p>	<p>○校地・校舎、施設、設備に関しては京都へ移転に伴い、不足分を充足する予定でいる。</p>

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

#### 4-1 校地・校舎

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
4-1-1 教育機関として適切な位置環境にあるか	5	教育機関として適切な位置環境にある。	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	特になし	HP
4-1-2 安定的に教育活動を継続するための校地校舎が整備されているか	2	安定的に教育活動を継続するための校地校舎が整備されている(移転予定)。	校舎の老朽化に伴い、京都へ移転する予定。	移転後、校舎をリフォームし新規開校の予定。	HP
4-1-3 校舎面積は基準に適合しているか	5	校舎面積は基準に適合している。	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	特になし	校舎図面
4-1-4 防災に対する体制は整備されているか	2	移転後、速やかに計画書を提出予定。	校舎の老朽化のため非難階段が使用禁止となっている。	移転後、校舎をリフォームし新規開校の予定。	特になし

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
岐阜の校舎の老朽化もあり、大規模工事になる想定で社内で検討してきたが、この度、京都へ移転、校舎をリニューアルし新規開校する運びとなる。	防災に対する意識統一は、当初よりしっかり整備し、勤務する職員並びに学生にしっかりと周知できる体制を検討していかねばならないと考える。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 4-2 施設・設備

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
4-2-1 教室・その他施設は基準に適合しているか	5	日振協の現地審査に合格しているため、適合していると判断している。	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	移転後、校舎をリフォームし新規開校の予定。	日振協提出書類
4-2-2 教室内は十分な照度があり換気がなされているか	5	照度・換気ともに問題がないと判断している。	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	移転後、校舎をリフォームし新規開校の予定。	校舎図面
4-2-3 すべての教室は、教育上必要な遮音性が確保されているか	3	遮音設備は施していないが、周囲が田舎であるためとても静かである。	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	移転後、校舎をリフォームし新規開校の予定。	特になし
4-2-4 授業時間外に自習できるスペースが十分確保されているか	2	現行校舎では十分とはいえない。	1月期、学生数が定員いっぱいになると空き教室がなく、自習スペースがロビーのみであり十分だとはいえない。	移転後、校舎をリフォームし新規開校の予定。	校舎図面
4-2-5 教育、学生数に応じた図書やメディアが整備され、利用できる環境になっているか	2	現行校舎では十分とはいえない。	十分な量があるとはいえない。	移転後、校舎をリフォームし図書スペースをしっかりと確保する予定。それに伴い図書数も十分な量にする予定。	日本語教育関係図書の蔵書目録 移転の際に購入の図書購入目録

4-2-6 視聴覚教材や ICT 教育の設備が整備されているか	2	されていない。	今現在は十分とはいえない。	移転後、校舎をリフォームすると共に ICT 設備も整備する予定である。	ICT 設備リスト
4-2-7 教職員の執務に必要なスペースは確保されているか	3	十分とはいえない。	教員数に対して十分とはいえない。	移転後、校舎をリフォームする際に必要スペースを確保する予定。	校舎図面
4-2-8 学生数に応じたトイレが設置されているか	5	建物の基準に応じたトイレは設置されている。	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	移転後も必要数確保する予定。	校舎図面
4-2-9 法令上必要な設備等が備えられているか	4	日振協の現地審査に合格しているため、適合していると判断している。	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	移転後も基準に基づき整備する予定。	日振協提出書類
4-2-10 廊下、階段等は、緊急時に危険のない形上であるか	2	危険のない形状である。	法務省 HP,また(一財)日本語教育振興協会の基準に基づいて整備している。	移転後も基準に基づき整備する予定。	日振協提出書類 校舎図面

4-2-11 バリアフリー対策が施されているか	1	実施されていない。	施されていない。	全館がバリアフリーとはなっていない。	校舎図面
4-2-12 校内の清掃状況は管理が行き届いているか	5	校内の清掃状況は管理が行き届いている。	年2回の学生満足度アンケートで高評価を得ている。	今後は業者も入れてますます管理する予定。	学生満足度アンケート結果

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
施設、設備については、田舎であるという環境で勉強にふさわしいとてもいい環境であると思う。教室は広く学生にとってはいい環境であるが、職員スペースについては少し手狭である。今後は京都へ移転し、教室も職員も席を確保できるスペースをしっかりと検討し、リフォームする予定である。	リフォームするに際して、今までの不具合をしっかりとリフォーム材料として検討する予定である。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 基準 5 安全・危機管理

点検大項目総括	課題及び改善内容
<p>○健康・衛生について、学生の健康診断は入学前に指導し、させてからの来日を指導しているが、日本に来日後は、結核健診をするにとどまっている。今後は、定期的に行うよう、検討したい。</p> <p>また、国民健康保険の加入も長期進学者に対しては徹底して行っているが、非進学者に対しては任意としている。この状況が妥当かどうかを今一度検討したい。感染症については学校内では徹底できているが、寮内では無法地帯となっている。寮内の規則もある程度決める必要性を感じる。</p> <p>○危機管理について、防火管理については意識が高いが、危機管理は薄いと感じる。また災害時、警報発令時などの取り決めが曖昧な部分がある。</p>	<p>○健康診断の徹底</p> <p>○国民健康保険の加入</p> <p>○寮での感染症予防の方法の検討</p> <p>○マニュアル的に定めた危機管理はあるが、実際そうなったときに本当に機能するかどうか、通常から訓練をされていないと出来ないと感じる。したがって、今後は実施訓練など、災害を想定した取り組みが必要になってくると感じる。</p>

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 5-1 健康・衛生

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-1-1 学生の健康管理を担う組織体制があり、機能しているか	2	機能していない。	年に1度の結核健診は行うが他の健康診断は行っていない。	入学前健診の徹底と、年に1度の健康診断の徹底を検討したい。	特になし
5-1-2 学生全員が適切な健康保険に加入しているか	4	ほぼ全員加入している。	短期生については自国の保険に加入している。長期生に関して欧米学生は任意としている。進学する学生については100%加入させている。	非進学の学生についての保険加入を再度検討しなければならない。	国民健康保険証のコピー
5-1-3 感染症発生時の措置を定めているか	3	十分とはいえない。	公欠規定はしっかり定めて学校を休ませることは出来ているが、寮の対策が出来ていない。	今後感染症発症時、寮でどう対策をするのか、検討が必要。	マニュアル（作成中）

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
健康については、本人任せにしている部分も多いように感じる。長期生(進学希望者)に関しては国民健康保険に強制的に加入させているがそれ以外の学生については、任意にさせている。感染症発症時についても、学校欠席のルール化は出来ているが、寮での感染対策までは出来ていないため再検討が必要だと考える。	国民健康保険に加入しないのは、欧米学生を中心とした自国で保険制度がしっかりある国の学生である。学生のニーズと現実の部分では、今一度検討が必要だと感じる。感染症対策について、私生活での管理をどうするかは更に検討が必要。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 5-2 危機管理

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
5-2-1 危機管理体制が整備されている	2	危機管理体制は整備されつつある。	各事業所の衛生委員が危機管理体制の整備・制定を準備している段階である。	危機管理に対する意識の統一化を図ると共に業務復帰がスムーズに出来るよう常に体制作りをしなければならない。	避難訓練マニュアル 災害対策携帯カード
5-2-2 火災・地震・台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所を定めているか	3	避難方法・避難経路・避難場所は定められている。	入国時オリエンテーションにて案内している。 年に一度火災を想定した避難訓練をしている。	避難場所は定めて書面での案内はしているが実際に引率するまでには及んでいない。今後引率するか検討したい。	避難訓練マニュアル
5-2-3 気象警報が発令された場合の措置を空定めているか	3	その時の気象状況に応じて事務局長が判断。	その時の状況で学校長が判断しており、一定の基準が不十分である。	ある程度のマニュアル作成と、一定の基準作成が必要だと感じる。	職員緊急連絡網
5-2-4 災害等に対する避難訓練を定期的に行っているか	4	年に一度、管轄の警察署・消防署・区役所・公園事務所の協力で避難訓練及び消火活動体験を実施している。	年に一度火災を想定した非難訓練は行っている。	地震や災害を想定した非難訓練は行っていない。今後要検討。	避難訓練マニュアル 実施報告
5-2-5 防災用品が備蓄されているか	5	避難時のヘルメット・脱出用工具・ラジオのほか、災害用の備蓄（水・食料・防寒具）を校内に格納してある。	学生数、職員数に基づき必要最低限の用品を備蓄している。	備蓄の在庫管理と入れ替えなどルール化がされていない。今後要検討。	防災用品購入リスト 備蓄リスト

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
3. 11以降、防災用品や食料・水の備蓄を進め、指定避難場所まで全学生を引率しての避難訓練を実施。消防署にもご協力いただき、消火訓練や耐震車による地震体験も行った。危機管理体制は次第に整備されてきているといえる。	4期制を取っているため、年1回の避難訓練では行き届かない部分もあり、不足する部分をどのように補っていくかが今後の課題。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 基準 6 法令の順守等

点検大項目総括	課題及び改善内容
<p>法令の遵守においては、株式会社アイ・エス・アイとしても非常に意識をしている部分である。</p> <p>本校は日本語教育振興協会に認可を得て開校以来、「適正な設置基準及び学校運営がされている」と定期的な実地検査でも認められている。</p> <p>個人情報の取り扱いに関しては、ISI グループ全体の重要方針として、「個人情報を適切に取り扱い、保護することが極めて重要である」と深く認識している。</p> <p>そのため、重要書類の保管方法を職員に厳守させ、不要な文書はシュレッダーを利用、定期的な保管文書整理では溶解処分を業者に委託しており徹底した個人情報保護に努めている。</p> <p>また入学時に「個人情報取り扱いに関する同意書」を学生に署名してもらい、学校の学生情報の取り扱いの対策を講じている。</p> <p>自己点検・自己評価に関しては、日本語教育機関の学校評価が義務化されたこともあり、今年度初めての試みである。学校運営を担う立場として今まで着手できなかったことは猛省すべき点である。</p> <p>日ごろの業務・方針などを改めて点検・評価することで課題が浮き彫りになり、ひいては本校の発展につながるものであることを肝に銘じ、今後も真摯に取り組んでいきたい。</p>	<p>個人情報の保護に関しては、対策もさることながら、職員の意識づけが肝要であり、新入社員研修では強化すべき項目と考える。</p> <p>また、学生数の増加により取り扱い方法や保管方法が粗雑になりがちのため、定期的な啓発活動と同時に不定期なチェック体制を導入すべきと考える。</p> <p>現在 SL(スクールリーダー)に膨大な学生の情報がデータ管理されているが、閲覧権限の設定はあるものの、セキュリティ管理の強化が求められる。</p>

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 6-1 法令の順守

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
6-1-1 法令、設置基準等の順守と適性な運営がされているか	5	法令、設置基準等の順守と適正な運営がされている。	法務省 HP, また (一財) 日本語教育振興協会の基準に基づいて運営している。	特になし	特になし
6-1-2 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4	個人情報保護のための対策は行っているが、不十分な部分もある。	入学時に個人情報について公開の有無の許可を学生1人ずつから取得している。	職員に対してないため同じように検討要。	特になし
6-1-3 入管・日振協・関係官庁への届け出、報告を滞りなく行っているか	5	届出、報告は滞りなく実施されている。	確実にしている。	スケジュール化をしっかりとし、遅延なく的確に出来るようダブルチェックをしている。	受入の開始、終了報告など (入管) 定期報告など (日振協)
6-1-4 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3	2年前から自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めてきたが、問題点の洗い出しに留まっており、改善が遅れている。	今回初めての自己点検であるため。	今回初めての自己点検であるため、今後問題点となった箇所を一つずつ改善を図りたいと考えている。	特になし
6-1-5 自己点検・自己評価の結果は公開しているか	1	2015年度までは公開していない。	今回はじめての自己点検であるため。	不十分事項については一つずつ改善を図る。	特になし

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
改めて自己点検をすると、不十分なところが浮き彫りとなる。 今後、不十分事項を再度検討し、改善を図りたい	簡単に出来るところから、一つずつ改善をする。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 第2 運営に関する事項

### 基準7 運営全般

点検大項目総括	課題及び改善内容
<p>○組織的な運営について、全社キックオフミーティング、決起大会などで短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化されて職員に周知されている。行われる事業計画に対して、予算もしっかり立てられ、それに対しての実際運営との予算乖離もしており、的確に運営されている。また、それら全部を見通して業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的、かつ、組織的に行われている。</p> <p>○納付金について検定料、入学金、授業料及びその他納付金の金額及び納付期日が明示され、また学費以外に入学後必ず必要になる費用も同じように明示されている。今回新告示基準に伴い、学費以外に入学後必ず必要になる費用もしっかりと明示し公開されている。</p> <p>○情報の共有化及び発信について、内部の情報に偏りがちであるが、外部の情報を意識することで日本語学校業界全体を見通すことが出来る一般知識が得られる努力をするべき。他の日本語学校がどんな状況で学生募集をするか、現場で勤務する、教務、事務局が同じ目線で世界情勢を把握し、常にお客様である学生に対してどのようなサービスが提供できるか模索すべきだと思う。</p>	<p>○実際、担当する職員の力量により、認識にばらつきがある。今後ジョブローテーションを含め全員が様々な業務が出来るよう、成長機会を与えていくべきだと感じる。</p> <p>○お金に関するものは、一番クレームに直結する事項であるため、はっきり明示し、学生に混乱させない努力をいつも惜しまないようにしたい。</p> <p>○学希望者・在籍者及び関係者が理解できる言語で、適切に情報提供をするべきだが、在日学生に対する現場職員の言語対応者の手が薄い。この辺りの補充を検討すべき。</p>

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 7-1 組織的な運営

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
7-1-1 短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されているか	5	短期及び中長期の運営方針と経営目標は毎年明確化され、教職員に周知されている。	年2回の全社会議、月1度の幹部会議を行い、各事業部ではその内容を職員会議で周知している。また講師ミーティングで非常勤講師にも共有を図っている。	何度共有しても意識が薄くなるため、行うタイミングと共有する内容については再度検討が必要だと感じる。	中期ビジョン 戦略MAP 中期BSC KPI
7-1-2 管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされているか	4	管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされている。	それぞれのマニュアル制定がされてつつあるが、まだまだ口頭引継ぎが多い部分がある。	書面に残すことで、統一化を図りたい。	グループ諸規定集
7-1-3 意思決定システムは確立されているか	4	意思決定システムは確立されている。	自分の役職に見合った意思決定がなされている。	どの役職で意思決定するのか、不明瞭な部分もあるため、随時書面に残せるよう図りたい。	承認ルート表
7-1-4 予算編成が適切になされ、執行ルールが明確であるか	4	予算編成が適切になされ、執行ルールが明確である。	予算を立て、それについて予算乖離もされている。	想定できない支出ももちろん多いため、中長期にまたがり大きく支出するものの経営側との意思疎通をもっと図らなければならいと考える。	予算表
7-1-5 業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的、かつ、組織的に行われているか	4	業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的、かつ、組織的に行われている。	業務の見直しは随時行われているが、それぞれ個人的に行う部分が多い。	ジョブローテーションをすることで、他人の目から見た効率化を図ることと、どの担当者もどの仕事も出来るようになることで組織力が上がることをもう少し検討したい。	特になし

7-1-6 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	情報システム化等による業務の効率化が図られているが、更なる効率化を検討中である。	SL (スクールリーダー) の改訂を含み行ってはいるが、ある程度の限界が見られる。検討が必要。	SL などのシステムからクラウド型のシステムに移行することで更に行えることの幅を広げたい。	特になし
---------------------------------	---	--	---	---	------

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
<p>学生数が増えてきて、仕事の大量化、また新人職員の採用などで通常業務が押される感じになっている。これを更に効率よくこなすために、システムの改訂を含み業務の可視化を進めることにより、的確に迅速に仕事ができる体制をもっと検討すべきだと感じる。</p>	<p>新しいシステムの導入の検討と、人材育成の方法の検討が必要。</p>

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 7-2 納付金

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
7-2-1 検定料、入学金、授業料及びその他納付金の金額及び納付期日が明示されているか	5	納付金額は学則、HP、募集要項に、納付期日は年間スケジュールに明示されている。	HP、パンフレット、募集要項、学校規則などに明記。	特になし	HP パンフレット 募集要項 学校規則
7-2-2 学費以外に入学後必ず必要になる費用が明示されているか	5	学費以外に必ず必要になる費用は明示されている。	HP、パンフレット、募集要項、学校規則などに明記。	特になし	HP パンフレット 募集要項 学校規則
7-2-3 関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されているか	5	関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている。	HP、パンフレット、募集要項、学校規則などに明記。	特になし	HP パンフレット 募集要項 学校規則

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
金銭に関してはトラブルに一番なる部分であるため、各種資料に明示すると共に、入学希望受付をする際に出来る限り詳しく説明するよう、心がけている。	返金について、新告示基準についてもしっかりと明記するよう促されているので、それぞれしっかりと明記することと共に、各職員がみんな説明できるよう、指導しなければならないと考える。

最終更新日付

2017年3月31日

記載責任者

井尾 美穂

### 7-3 情報の共有化及び発信

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
7-3-1 外部の情報を積極的に入手し経営に生かす仕組みがあるか	3	自己に任せる形となっている。	自己に任せる形となっている。	情報の共有の仕方の検討と職員の意識の持ち方の再指導。	特になし
7-3-2 内部の情報共有を効率的に行う仕組みがあるか	4	内部の情報共有を効率的に行う仕組みがある。	週に一度の職員会議。	職員会議の定例化で情報共有は出来るが、逆に意識が薄くなることもある。特に重要なことに関しては再度メールでリマインドするなど、周知の方法を検討する必要がある。	会議議事録
7-3-3 入学希望者・在籍者及び関係者が理解できる言語で、適切に情報提供をおこなっているか	3	十分とはいえない。	入学希望者に対しては入相が対応しているが、在籍者に関しては不十分である。	京都へ移転してからは各種言語対応者を勤務させる予定であるためある程度解決する見込みである。	特になし

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
事務局長レベルになれば外部と繋がることも多く、知り得た情報を共有、会社に生かすということが当然出来るが、一般職員は認識及び外部交流の機会が薄い。	自分の置かれた役職立場で、どういったことが経営にプラスになるのかを常に考えられる職員体制になるといいと考える。そうするには、職員の意識改革が必要であり、自分たちで学校を作る、という誇りを持たせることが必須だと考える。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 基準 8 学生募集

点検大項目総括	課題及び改善内容
<p>中国（大連）に直営事務所を開設し、東京には独自の入学受付の部署を持ち、東京と大連を拠点に入学選考を一括して行っている。入学希望者から提出された書類は、入学相談センターで一括して審査し、手続きを行っている。教育機関や留学紹介機関は信頼できる機関を厳選しており、代理店契約締結後に学生の受入れを開始している。</p> <p>学生受入れにあたっては、就学理由、日本語学習歴、日本語能力、経費支弁能力と学校の運営基準に照らし合わせ、教育理念を理解し、勉強意欲が強く、日本語学習に対して明確な目標を持つ学生を分け隔てなく世界の様々な国・地域から受け入れている。</p> <p>常に教育の質的向上を図り、学生の満足度を高めるためには、当校の教育理念を理解し、学習意欲や目的意識が高い学生を募集することが非常に重要であると認識している。</p> <p>他を寄せ付けない圧倒的な実績を上げることで本校のファン層を作り、安定した入学者数を毎年確保するために職員一丸となって日夜奮闘している。</p> <p>今後の課題としては、卒業生の活躍が募集にどう貢献したか客観的に測る尺度を持ち、経年対比ができる仕組みを作ることである。</p>	<p>学習者のニーズは年々多様化しており、目的にあった最適な教育環境提供のためには、コースごとの受入れ方針などの設定を検討する必要があると認識している。</p> <p>また、近年では早期の修了者やコース満了予定者が延長を希望する場合もあり、在籍人数の予測が年々難しくなっている。担当者は在籍数をリスト化し、入学希望者の募集のタイミングで最新の情報に更新し、適切な時期にミーティングで共有をしながら、総合的な在籍者数の管理をすることにより、募集定員の範囲内で安定的な募集活動を行っていく。</p> <p>学生募集では、独自の部署を持つことや、海外の募集拠点によって、実際に起きている教育現場の実態や学生のニーズの変化に遅れることなく、タイムリーに対応していかななくてはならない。募集担当者は常に最新の学校情報の把握に努め、コースやカリキュラムの深い内容理解まで、教職員のコミュニケーションを密に連携していく必要である。</p>

最終更新日付

2017年3月31日

記載責任者

高山 むつ実

## 8-1 募集方針

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
8-1-1 理念・教育目標に沿った学生の受入れ方針を定め、年間募集計画を策定しているか	4	多国籍の学習環境提供の方針のもと、国籍バランスを考慮しながらエリアと国別の計画を策定している。	前述のとおり	学習者のニーズの多様化に対応し、目的にあった最適な教育環境提供のためには、コースごとの受入れ方針などの設定を検討する必要がある。	事業計画 営業アクションプラン
8-1-2 募集定員の範囲で募集活動を行っているか	4	定員は関連法規に従い、適正に設定されており、その範囲内で募集活動を行っている。  在校生の修了者予測を入学期ごとに国別に設定し、募集人数を調整している。	「日本語学校教育施設在籍者数等現況報告書」にて実証済み。  入学者数	早期修了者やコース満了予定者が延長を希望する場合があります。在籍人数の予測が年々難しくなっている。担当者は在籍数をリスト化し、入学希望者の募集のタイミングで最新の情報に更新し、適切な時期にミーティングで共有をしながら、総合的な在籍者数の管理が必要である。	事業計画 在校生定員予測  日本語学校教育施設在籍者数等現況報告書
8-1-3 募集担当職員は、学校の情報を正しく認識した上で、入学相談を行っているか	4	定期的な勉強会を開催し、新プログラムやコース内容の勉強会を実施している。	ファイルサーバー内 学校共有情報のまとめ	教育現場や学生ニーズの変化に対応するべく、募集担当者は常に最新の学校情報の把握に努め、コースやカリキュラムの内容理解まで更なる勉強会が必要である。	学則、募集要項、 学校案内パンフレット 他

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
年間募集計画を策定し、定員の範囲内で募集活動を行っている。	受入れ方針の検討や在籍者数の管理が必要で、正しい情報を提供するには、定期的な情報共有や更なる細かいコミュニケーションをとっていく。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	高山 むつ実
--------	------------	-------	--------

## 8-2 募集活動

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
8-2-1 教育内容・教育成果を含む、最新かつ正確な学校情報が入学希望者の理解できる言語が開示されているか	4	正確な情報を多言語で開示している。(英語・簡体字・繁体字・西語・韓国語・露語等) パンフレットにより、モンゴル語、インドネシア語・タイ語で開示している。	学校ホームページ 募集要項 学校案内パンフレット	教育成果の公表は、主に出口実績のみの公表となっているため、今後はさらなる情報開示を検討していきたい。	学校ホームページ 募集要項 学校案内パンフレット
8-2-2 求める学生像を明示しているか	2	入学選考の段階では勉学意欲や目的等を確認するが、求める学生像の明示は曖昧な点がある	カリキュラムに学生像の設定を行っていない	コースごとに育成する人材像を明確にし、求める学生像をホームページなどでも明示していきたい。	特になし
8-2-3 応募資格及び条件を、入学希望者の理解できる言語で明示しているか	3	募集要項にて、各言語で明示している。	募集要項	主要言語では明記しているが、その他の言語では丁寧な説明が必要である。	募集要項
8-2-4 募集活動を行う国・地域の法令を順守した募集活動を行っているか	4	企業理念に則り、法令遵守を徹底している。	代理店契約書の内容を説明し、適正な募集活動を遂行していただいている。	海外の代理店が当校をどのように紹介しているか、詳細の確認をしきれてない国もあり、そのあたりの今後の徹底は課題である。	代理店契約書

8-2-5 海外の代理店等に、最新かつ正確な情報提供を行っているか	3	最新情報はホームページやパンフレットやチラシによって提供し、定期的な出張訪問やSkypeによって直接説明を行っている。	学校ホームページ 募集要項 学校案内パンフレット	情報が古いままや、間違った情報が流出しないよう定期的に代理店を訪問、説明し、ホームページや営業資料を確認していく必要がある。	学校ホームページ 募集要項 学校案内パンフレット
8-2-6 海外の代理店等の行う募集活動が、適切に行われていることを把握しているか	3	新規エリアや全代理店の募集活動の把握は難しい。	出張計画（出張報告・訪問記録）	定期訪問と担当者との密なコミュニケーションにより把握していく。	出張報告書

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
<p>学生受入れにあたっては、就学理由、日本語学習歴、日本語能力、経費支弁能力と学校の運営基準に照らし合わせ、教育理念を理解し、勉学意欲が強く、日本語学習に対して明確な目標を持つ学生を分け隔てなく世界の様々な国・地域から受け入れている。</p> <p>中国（大連）に直営事務所を開設し、東京には独自の部署を持ち、東京と大連を拠点に入学選考を一括して行っている。入学希望者から提出された書類は、入学相談センターで一括して審査し、手続きを行っている。教育機関や留学紹介機関は信頼できる機関を厳選しており、代理店契約締結後に学生の受入れを開始している。</p> <p>入学希望者に配布する募集要項では入学条件を明記しており、ホームページでは学校の教育成果、留学している学生のリアルな姿として、在校生の成長の過程や卒業生の進路や活躍を学内に掲示し、またWebサイトやSNSで発信することで、国内はもちろん、海外からでも十分に学校生活をイメージでき、入学後のミスマッチが起こらないように心がけている。</p>	<p>8-2-2: 求める学生像はホームページなどでも明確に明示することで、適切な学生の受入れを行うことが出来る。</p> <p>8-2-3: 受入れ学生の主要言語では情報を明示しているが、その他の言語では誤解がないよう丁寧な説明が必要である。</p> <p>8-2-6: 海外の代理店や教育機関の取引数が多いため、全ての情報の確認が難しいのが現実的にある。情報が古いままであったり、間違った情報が流出しないよう、定期的に代理店に説明し、代理店のホームページや営業資料を確認していく必要がある。</p>

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	高山 むつ実
--------	------------	-------	--------

### 8-3 入学選考

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
8-3-1 入学選考基準及び方法が明示されているか	5	選考基準を募集要項で明記している。	前述の通り	国・エリアにより選考基準が公平とは言い難い。	募集要項 ホームページ
8-3-2 学生情報を正確に把握し、提出書類により信憑性の確認を行っているか	4	共有 FS に入学選考に関する DB を保存し、提出書類は複数のスタッフで母国語も含め確認を行っている。	前述の通り	対応できない言語では日本語の翻訳の添付をつけさせ、現地での公証をさせている。	事実確認書
8-3-3 入学選考を行う体制が整備されているか	5	入学希望者とは母国語または英語にて、専属スタッフが入学選考を行っている。	前述の通り	日本での大学進学資格に必要な 12 年教育制度ではない国からの希望者には準備教育が提供できない。	面接シート
8-3-4 受け入れるコースの教育内容が、志願者の学習ニーズと合致することを確認しているか	4	各種媒体における就職、資格取得等の教育成果に関する情報公開は、まだ不足していると思われる。	前述の通り	就職、資格取得等の教育成果に関する情報の媒体別掲載内容、情報量などの適正な取り扱いについて、社会情勢、環境を考慮して検討する。	HP 就学理由書 面接シート

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
<p>学生選考は現地に赴いての直接面接や Skype を用いた面接を行い、学校の基準にのっとり必ず学校職員が行っている。これら面接の結果と提出された申請書類から総合的に入学選考をするため、学生の目的意識を第一に、支弁能力、勉学意欲を中心に基準を設けている。その後も現地と密に連絡・訪問を繰り返し、安心して入学できるようサポートを継続している。特に中国には現地事務所を置き、より綿密に入学希望者、保護者とコミュニケーションができるようにしている。また共有のサーバーに入学選考に関するデータを保存し、入学選考に関する情報を正確に把握している。</p>	<p>特に東京では入学希望者が多いため、入学選考には細心の注意を払っている。書類審査では経費支弁能力があるかどうか厳格に審査し、筆記試験では授業についていける学力があるかどうか適正かつ公平な基準で選考している。面接では志望理由が明確かどうか、願書や履歴書など記載内容お相違がないかを確認し、書類の信憑性と希望者本人の勉学意欲両方をみている。不法滞在や不法残留を多く発生させている国については、特に厳格な選考基準を設け、質の高い学生の確保に努めている。</p>

最終更新日付

2017年3月31日

記載責任者

高山 むつ実

## 基準 9 教育活動

点検大項目総括	課題及び改善内容
<p>○教育計画として、理念・教育目標に合致したコース設定をしており、通常より事業計画にて、さらにそれをよくする努力を怠っていない。授業は日本語学校にとって最大の商品であり、その価値を上げるためにいろいろな検討、分析を行い、年々より良いものにするための努力をすべきだと考えている。</p> <p>○実施については、日本語教授をやりっぱなしにせず、学生評価をしっかりとすることで常に指導者側も上を目指せる体制としている。学生満足度調査に基づき、よりよい授業の提供に各職員が努められる様、検討している。時代にあった ICT 授業への取り組みが、まだまだ未開発ではあるが、教材開発を含め、先行して行えるよう、準備をしたいと考える。</p> <p>○成績判定について校内では判定方法はしっかり決まっているが、それを周知し開示するまでには至っていない。</p> <p>○授業評価について、学生による授業評価を年 2 度しっかりと行っている。</p>	<p>○学生国籍に合わせると進度が遅れがちになるところを、しっかりとカリキュラム体系をとることで、日本語学校としての最終到達点をしっかりと取りそれに向かい各教務が学生に対して指導をするという組織的な教育活動が出来ていると感じる。今後は非漢字圏国籍の学生のより進学率を高め、日本の社会に必要不可欠である、質の高い外国人労働者の確保の一旦を担えるよう努力したいと思う。</p> <p>○学生への成績通知について、積極的に学生へ指導することで日本語学習のモチベーションアップも図り、相乗効果を期待できるよううまくシステム構築を図りたいと考える。</p> <p>○学生満足度調査の有効活用ももっと徹底して検討すべきである。</p>

最終更新日付	2017 年 3 月 31 日	記載責任者	井尾 美穂
--------	-----------------	-------	-------

## 9-1 教育計画

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
9-1-1 理念・教育目標に合致したコース設定が行われているか	5	理念・教育目標に合致したコース設定が行われている。	進学コースしかないが、在籍学生の95%は進学している現状を見ると、合致しているといえる。	京都へ移転した際には、短期の学生にも合致する、アクティビティ体験型授業を提供する予定。	学校案内パンフレット ホームページ
9-1-2 教育目標達成に向けた教育内容、教育方法及び進度設計がなされているか	5	教育目標達成に向けた教育内容、教育方法及び進度設計がなされている。	非漢字圏学生が多いため、大学進学目標を設定し、初級進度を早め最終目標到達を目指す設計をしている。	今後もこれに準ずる。	学校案内パンフレット 入管提出書類
9-1-3 レベル設定に当たっては、国内でまた国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしているか	5	国内でまた国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしている。	JLPTの基準、有学者の知識を取り入れ総合的にカリキュラムを検討した。	今後もこれに準ずる。	学校案内パンフレット 入管提出書類
9-1-4 教育内容及び教育方法について、教員間で共通理解が得られているか	5	教員間で共通理解が得られている。	進度を早めたことで一時教務に混乱があったが、職員会議、講師ミーティングで徹底を図った。	今後もこれに準ずる。	研修資料 指導マニュアル
9-1-5 カリキュラムは体系的に編成されているか	5	カリキュラムは体系的に編成されている。	最終到達をはっきりときめ、スケジュールに完全に落とし込むことにより、在籍期間で確実に目標到達に行くよう体系的に編成した。	今後もこれに準ずる。	学校案内パンフレット 年間カリキュラム

9-1-6 教育目標に合致した教材は選定されているか	5	教育目標に合致した教材が選定されている。	授業進度を確定させるために漢字教材を検討した。予定どおりの進捗で進むための選定である。	今後もこれに準ずる。	学校案内パンフレット
9-1-7 補助教材、生教材を使用する場合は、出典を明らかにするとともに、著作権法に留意しているか	2	各教員個人に任されている。	各々が著作権法にあたるものを配布しないようにするなど、留意している。	今後はルール作りをし、それを文書化の上、各教員に周知し、徹底することが必要。	特になし
9-1-8 授業に関する学習リソース及び情報を、授業開始までに教員に提示しているか	5	提示している。	講師ミーティング、通常の引継ぎ等で非常勤講師にまで提示するよう心がけている。	今後もこれに準ずる。	年間スケジュール 授業引継ぎ報告書
9-1-9 教員配置が適切になされているか	5	教員配置が適切になされている。	特に初級の担任は妥協せず、日本の入り口がしっかりと伝えられるようすごく注意している。また教員レベルにより常に育成が図れるよう検討している。	今後もこれに準ずる。	タイムテーブル 教員リスト

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
学校にとって一番の商品であるため、絶対妥協は許されないと考える。常に上を求め、学校の姿勢を明確にし、非常勤講師までその意識が浸透するよ対応を強化している。新しく試みる授業準備については、講師ミーティングで教授法を共有したりしており、進化を常に求めながら定着も図り完全に在籍期間中にカリキュラムが終了するよう、徹底して行っている。	非漢字圏の学生が多いとどうしてもカリキュラム進捗が遅れがちになる。そこを確実にこなすためには、各講師の強い意志がある。その意志の統一化を図るため、講師ミーティングで再三の事業計画の浸透を図り、徹底して行うことで今の状態を保っている。今後も新しく採用する教務もすべて同じ認識でいられるためには常にその意志の伝達が必須であると考え。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 9-2 実施

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
9-2-1 授業開始までに学生の能力を筆記試験等により判定し、適切なクラス編成を行っているか	5	適切なクラス編成を行っている。	プレイスメントテスト、(筆記・面接)を行い、レベルにあったクラスへ入学させている。	今後もこれに準ずる。	プレイスメントテスト 面接シート
9-2-2 教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達しているか	5	必要な情報を伝達している。	非常勤講師に対しても確実に伝達している。	今後もこれに準ずる。	プレイスメントテスト 進路調査票
9-2-3 決定したシラバスによって授業が行われているか	5	決定したシラバスによって授業が行われている。	授業については年間で決定するため、これに従い行われている。	今後もこれに準ずる。	年間スケジュール レベル別スケジュール スケジュール
9-2-4 修了の要件が定められ、学生の理解できる言語によって明示されているか	3	十分ではない。	学校内で基準は制定してあるが、学生には明示していない。	学生に明示できるよう準備したい。	学生規則

9-2-5 教育内容に応じた教育用機器を活用しているか	3	今後活用を検討している。	ICT 授業の取り入れを検討中である。	京都移転後、積極的に ICT 授業を計画している。	
9-2-6 授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録しているか	5	授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している。	授業の引継ぎ簿、出席簿の記入が徹底されている。	今後もこれに準ずる。	出席簿 授業記録簿
9-2-7 理解度・到達度の確認が、適正な時期に行われているか	5	理解度・到達度の確認が、適正な時期に行われている。	単元テストの徹底と、期ごとの期末試験が徹底されている。	今後は ISI グループで統一試験を検討している。	アチーブメントテスト 定期テスト
9-2-8 学生の自己評価を把握しているか	4	満足度アンケート結果において、学生の自己評価を行っている。	満足度アンケートで自己評価はさせているが、相対評価として取っているため、学生を特定して把握していない。	アンケート結果を担当がしっかり確認できる体制にすることを検討したい。	満足度アンケート結果
9-2-9 個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援が行われているか	3	行われているが、それぞれ全員が対応している。	学生数が少ないため、基本的には担当がすべて行うことになっている。	今後は、それぞれの学習で担当を選定し特別支援することを検討したい。	タイムテーブル
9-2-10 特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けているか	2	進路指導に関しては助言を受ける環境があるが、精神的な支援については助言を受ける環境はない。	今現在（過去においても）特定の支援が必要な学習者がいなかった。	今後発生可能性があるため専門家配置の検討はしていきたい。	特になし

9-2-11 授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処しているか	4	担当者が特定され、適切に対処している。	学生からの簡単な相談は各担当が、内容的に難しいもの、苦情に関しては事務局長が対応。	京都移転後は学生数が増えることが想定されるため、要検討。	学生指導報告カード 業務分担表
9-2-12 学習内容、時間割、成績等、教育に関する学生の留意点と、相談担当者が分かる文書を入学時に学生に配布しているか	2	配布していない。	各担当が対応するため、学生にはその説明を行っている。	京都移転後は学生数が増えることが想定されるため、要検討。	学生規則 学校紹介パンフレット
9-2-13 留学生活や入管法上の留意点と、それらに関する相談担当者が分かる文書を入学時に配布しているか	5	入学時に配布している。	事務局担当が1名なので、その説明を行っている。	京都移転後は学生数が増えることが想定されるため、内容、要検討。	学則 安全な留学生活のために(留学生生活指導委員会)
9-2-14 JLPT、EJU の指導体制はあるか	5	JLPT、EJU の指導体制は整っている。	授業内でももちろん、選択授業でもその対策授業は行われている。	今後もこれに準ずる。	選択授業スケジュール JLPT、EJU 結果データ

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
授業内容、成績、進学指導に関しては規模が小さいため、確実に担任が行う体制となっている。担任が私生活まで把握することで全体から見た問題点がすぐに分かるよう指導体制を取っている。	今後、学生数が増えるため、体制をさらに再検討する。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

### 9-3 成績判定

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
9-3-1 判定基準及び判定方法が明確に定められ、開示されているか	3	開示されていない。	社内的に判定基準は決まっているがそれを学生に公開していない。	判定基準を再検討。また開示方法など詳細に決める必要がある。	日振協提出書類 成績入力フォーマット 成績証明書
9-3-2 成績判定結果を的確に学生に伝えているか	3	不十分である。	進路面談時に伝えてはいるが、成績表を渡すという計画がまだ未実施である。	長年検討はしているが実現できていない。今後定期的に学生に成績表が渡せる体制を取るべく帳票類も含め再検討が必要。	成績証明書
9-3-3 判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証しているか	3	不十分である。	定期的のその期間が曖昧。	判定基準及び方法の妥当性、その定期的検証は、社内的にスケジュールに落とし込みしっかりとやる必要がある。	成績システムの入力フォーマット

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
社内的に決まっていることを学生にしっかりと伝達、周知していない。 日本語指導に対して学生は対価を支払っているのに、その価値をしっかりと見出せるよう、結果についての周知の仕方を再度検討すべきである。	判定基準、またその判定方法、周知の仕方、帳票に関してもすべて学生に対して伝えるということをしっかり検討する必要がある。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 9-4 授業評価

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
9-4-1 授業評価を定期的に実施しているか	5	授業評価を定期的に行っている。毎年人事評価を行い、面談を通じてFBを行っている。	年2回学生満足度調査を行っている。	今後もそれに準ずる。	研修スケジュール表 人事評価表
9-4-2 評価体制、評価方法及び評価基準が適切に定められ実施されているか	5	評価体制、評価方法及び評価基準が適切に定められ実施されている。	年2回学生満足度調査を行っている。	今後もそれに準ずる。	人事評価表 研修評価表
9-4-3 学生による授業評価を定期的に実施しているか	5	学生による授業評価を定期的に実施している。	年2回学生満足度調査を行っている。	今後もそれに準ずる。	学生アンケート
9-4-4 評価結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されているか	5	評価結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されている。	年4度の講師ミーティング時に学校評価を非常勤まで共有している。また各講師の評価は年1度の人事考課時に本人にしっかり伝達し目標設定にしようとしている。	今後もそれに準ずる。	学生アンケート

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
年に2度行う学生満足度アンケートを、生の声として学校運営に最大限生かすためにいろいろな角度から検証し自己反省の材料として使用している。事業部の事業計画にも使用し、客観的に自分の姿勢を見直し、今後も更なる上を目指せる学校作りをしたいと考える。	満足度調査の内容を常に検討していくべきである。また、教員間で授業見学を行い、授業を直接評価するなど、スキル向上につながるための評価体制見直しが必要である。

最終更新日付

2017年3月31日

記載責任者

井尾 美穂

## 基準 10 学生支援

点検大項目総括	課題及び改善内容
<p>○支援体制について、学生支援計画を策定し、支援体制が整備されているが休日及び長期休暇中の学生対応はできていない。</p> <p>○日本社会を理解し、適応するための支援として生活オリエンテーションを入学時に行っている。また地域の国際交流にでかけることにより、日本人の気質を知り、早く日本文化に溶け込める指導をしている。</p> <p>○生活面における支援は、住居についてはほぼ80%以上が目の前の寮に入寮することが出来ている。またアルバイトについては週28時間以内の勤務を徹底して指導した上で、日本語レベルに合わせて希望者に紹介することが出来る体制をとっている。またやむを得ず起こった交通事故対応、病気対応なども現場では必ず対応するよう体制を取っており、学生が安心して留学生生活を営めるよう、努力している。</p> <p>○進路に関する支援について、入学したときから卒業するまでの一貫指導がしっかりと確立されている。学生には進学に伴うお金の準備の話まで網羅させ、いつ、どのタイミングでどんなお金がいるのかもレクチャーしながら指導している。また、進路情報については出来る限り広く拾い、学生のニーズに応えられるよう職員も日々勉強している。</p> <p>○入国・在留関係に関する指導及び支援について、長年対応するベテランの職員がスケジュールに則りそれぞれのビザの管理を行っている。また不法滞在、不法就労、長時間労働に関しても学生調査をした後の個別カウンセリングで徹底して指導をしている。</p>	<p>○休日の学生支援体制を積極的に考えるべきである。</p> <p>○まだまだ日本人との間に壁があるこの日本社会で、外国人を受け入れてもらうためには、地域の社会貢献が一番いいのではないかと考える。学校周辺のゴミ拾いなど、簡単に出来る事項を指導しながら行うことで日本文化を指導する意味でも有効に出来る行事としては是非前向きに検討したいと考える。</p> <p>○緊急対応できる職員の数に限りがあるため、休日を含む職員の体制は見直す点だと認識する。</p> <p>○進路先についての情報収集が職員レベルにより格差がある。進路指導室の設定も含め今後学生数が増えたときには担任制度を取り払った対応を検討しなければならないと感じる。</p> <p>○出席率をしっかりと管理することで学生たちの在籍を確保できるよう、とにかく指導に指導を重ねている。しかし、一部非常勤講師までの意識が薄く、この辺りは一つの課題として今後どのように全職員に意識統一を図るかは今一度再検討しなければいけないと痛感する。</p>

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 10-1 支援体制

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-1-1 学生支援計画を策定し、支援体制が整備されているか	4	完全ではない。	日本人との交流、またアルバイト情報など学生の求めるサービスの提供を学生の目線で検討し、情報提供している。	在籍国籍が多いため、どの国の学生が何を求めているのか、更に分析し、学生のニーズに応えるサービスを追及していかなければならない。	学生指導内容報告カード 個人情報調査票 履歴書指導資料
10-1-2 休日及び長期休暇中の学生対応はできているか	3	十分とはいえない。	長期休暇中は職員が入れ替わり対応できるが、休日は完全に事務局長1人の対応となっており、対応に限界がある。	休日の体制を検討すべきである。	特になし

\* 5..完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
日本語学校に入学する留学生にとって、生活などに不安要素があると出席率が悪くなったりと確実に学習状況に影響がある。そのため、この支援体制整備は日本語学習指導と同様に重要な仕事である。学生生活の状況の把握に日々努め、入学から卒業まで一貫したサポートができる体制作りをシステム的にもすることで学生に安心感を与え、授業に集中させられる環境を整えなければならない。	緊急時には必要に応じて対応を行っているものの、休日の対応については十分とは言えず、検討の余地がある。また、学生数の増加と多国籍化により、支援スタイルの改革が求められている。これについてもそれぞれの国で対応の仕方を検討していくべきである。

最終更新日付	2017年4月17日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 10-2 日本社会を理解し、適応するための支援

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-2-1 入学直後のオリエンテーションを実施しているか	5	実施している。	入寮日翌日にオリエンテーションを実施している。途中入学の学生も日程を調整し必ず行っている。	オリエンテーションの内容を随時検討していくべきである。	オリエンテーション資料 学校規則
10-2-2 生活に関するオリエンテーションを実施しているか	5	実施している。	入寮日翌日にオリエンテーションを実施している。途中入学の学生も日程を調整し必ず行っている。	オリエンテーションの内容を随時検討していくべきである。	オリエンテーション資料 学校規則
10-2-3 地域の国際交流や、地域活動に参加しているか	5	参加している。	近隣学校や、地域の国際交流は非常に多く、積極的に参加している。	参加する学生に偏りがある。授業内でも何か行えるよう、今後は検討したい。	特になし
10-2-4 地域社会に貢献する活動は行っているか	1	行っていない。	特に何も行っていない。	学校周辺のゴミ拾いなど地域貢献する時間を取ることを検討したい。	特になし

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
入学時のオリエンテーションで具体的に日本での生活、また地域の方との交流の機会があることを紹介している。学生は積極的にそれらに参加することが出来、1年を通じて日本人との交流の機会が多くある。ただ、交流するのみで、地域社会に貢献する機会を持っておらず、今後は積極的に社会貢献する時間を取るなど検討したい。	1年を通じて国際交流する機会は確かに多いが、本人の性格などで多く参加する学生とそうでない学生にかなりの差が生じる。学校としてはそんな学生にも必ず交流できる機会を年に1度取っては来たが、今後はやり方、内容などはさらに検討すべきだと感じる。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

### 10-3 生活面における支援

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-3-1 住居支援を行っているか	5	行っている。	学校目の前に寮があり、寮への滞在を勧めている。	寮以外の希望学生については自己手配となっており、詳細は本人任せとなっている。	HP 募集要項
10-3-2 アルバイトに関する指導及び支援を行っているか	5	行っている。	希望する学生への紹介、面接指導、履歴書指導など、レベルに合わせて随時行っている。	中上級レベル学生については日本語が出来るため、積極的に自分で探すよう指導しているが、接客業のアルバイトをもっと紹介できるといいと感じる。	特になし
10-3-3 交通事故等の相談体制が整備されているか	3	十分とはいえない。	交通事故対応が出来る職員が限られていることと、知識としては持っているが体制が整備されているとはいえない。	事故対応マニュアルの作成を検討したい。	特になし
10-3-4 定期的に健康診断を実施しているか	3	十分とはいえない。	結核健診は年に1度行っているが、健康診断は未対応。	今後対応する方向で検討したい。	特になし

10-3-5 学生全体の生活状況について定期的に調査しているか	4	調査している。	年に4度、学生調査を行っている。	学生調査をした後に個人カウンセリングを行っているが、実際それで把握が出来るかどうかとなるとまだまだ不足している部分があることを否定できない。	学生調査票
10-3-6 その調査結果に対する裏付け確認は適正に行っているか	4	十分とはいえない。	アルバイトの実態調査など、完全に出来ているところと出来ていないところがある。また住居についても寮外生すべての自宅訪問は出来ていない。	今後裏付け確認の方法については要検討である。	学生調査票

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
留学生が生活に不安があると、学習状況に表れることから、生活状況の把握は年間を通じて計画的に行っている。しかし、詳細までは問題のある学生に限定され、問題のない学生は後回しになる傾向にある。今後は全員の詳細把握と、それに伴う指導をしっかりと行える体制にしていきたいと感じる。	健康診断の対応はやはり早く検討しないといけないと感じる。今現在は結核健診にとどまり、全員の健康診断までは学校として出来ていない。入学時の調査だけでは不完全であるため、今後どのように行っていくかは要検討である。

最終更新日付	2017年4月17日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 10-4 進路に関する支援

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-4-1 進路指導担当者が特定され、指導体制が有効に機能しているか	5	機能している。	進学クラスの担任がそれぞれのクラスの学生の指導を行うこととなっている。	より専門的な指導（大学院など）がまだ知識不足で十分とはいえない。今後指導法については要検討。	業務分担表
10-4-2 学生の進路希望を把握し、指導担当者間で情報が共有されているか	5	共有されている。	週に一度行う職員会議で、全学生の進路先を職員間でチェックしている。	今後人数が多くなったときの共有方法は検討すべきである。	進路調査票
10-4-3 進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にあるか	5	閲覧できる状態である。	専門学校・大学の各資料については最新版を決められた箇所に収納、閲覧できるようにしてある。	過去の進路先中心に最新のパンフレットを開示しているが、学生が興味のある分野の学校のパンフレットを積極的に連絡して送付していただき情報を増やせるよう検討したい。	大学・専門学校の募集要項・入学案内
10-4-4 入学時からの一貫した進路指導を行っているか	5	行っている。	進路サクセスカレンダーを作成し、入学当時から卒業までのスケジュールでそれぞれがどんな進路指導を受けることができるのかが見えるようになっている。	卒業年度は進路指導が盛りだくさんだが、入学年度はオリエンテーションが中心となっており、もう少し検討が必要かと考える。	進路サクセスカレンダー
10-4-5 EJU、JLPT、BJT等の受験指導体制は整っているか	5	整っている。	試験日を進路サクセスカレンダーにも落とし込み、各クラスにて受験誘導をしている。また個別に受験を迷う学生にも担任から指導を行っている。	今後、受験を必須にするかどうかも含め、検討が必要である。	進路サクセスカレンダー

10-4-6 大学学内試験対策の指導体制は整っているか	5	整っている。	学内試験日の周知から通常の単元テストまで常に学生には到達点を意識した指導をしている。	今後 ISI グループの統一試験を制定する方向でさらに検討する。	進路サクセスカレンダー
10-4-7 受験時、就職時の面談指導の体制は整っているか	5	整っている。	進路オリエンテーションで、基本的な指導を最初に行い、後個別で各学生と面談練習を行っている。	個別の面談練習は希望者対応としているため、今後全員に対して行うかどうかを検討したい。	進路サクセスカレンダー

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
入学時期から卒業まで、必要ときに必要な情報を与えられるよう、部内で何度も検討し作成した進路サクセスカレンダーに進路指導についてはすべて基づいて計画されている。	学生の多国籍化、また以前の学生と比べた状況の相違など、年々学生の層、考え方なども変化してきている。また国内の留学生増を受け、進路決定状況も変更しているためその辺りを常に生きた情報として更新しつつ、学生には最新の情報をあたえらるよう職員も努力していかねばならないと考えている。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 10-5 入国・在留関係に関する指導及び支援

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
10-5-1 研修受講等により、最新の情報収集が出来る体制がとられているか	4	研修受講等により、最新の情報収集が出来る体制がとられている。	日振協の事務研修会を始め地域で行われる研修会へは全部参加をし、職員に情報共有している。	事務研修については教師がどうしても薄学であるため、今後どのように研修を行うかを今一度検討したい。	研修、協議会等参加報告レポート
10-5-2 入管法上の留意点について、学生への伝達・指導等を定期的に行っているか	4	入管法上の留意点について、学生への伝達・指導等を定期的に行っている。	学生個別面談の際にしっかり話しをしている。入学時と入学後半年とビザ変更時としている。	学生への指導頻度がこれでもいいのか、要検討。	オリエンテーション配布資料 説明用資料 資格外活動の際の注意事項 在留カード携帯義務（校内掲示物）
10-5-3 在留に関する学生の最新情報を、正確に把握し管理しているか	5	在留期限、一時帰国、修了者・退学者の進路等、在留に関する学生の最新情報を把握管理している。	年4度の学生調査。カウンセリングを行っている。	今後もこれに従う。	在留資格期間更新者リスト 退学者リスト 一時帰国届出書 出国時のチケット
10-5-4 在留上問題のある学生、及び問題になりえる学生の指導を個別に行っているか	5	出席不良者をはじめ、問題のある学生及び問題になりえる学生に関して個別面談を実施している。	担任指導だけでなく、場合によっては事務局長指導を適宜行っている。	どのレベルの学生を個別面談対象者にするのか、完全に事務局長の経験のみでの判断となっているため、マニュアルの作成が必要か、今一度検討が必要。	学生指導報告カード

10-5-5 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組みを、継続的に行っているか	5	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組みを、継続的に行っている。	年4度の学生調査と随時行う個別カウンセリングで、生活状況の把握と、心に持つ悩みをなるべく聞くよう心がけている。	途中期にオリエンテーションを入れるなど、方法を少し検討したほうが良いと考える。	学生指導報告カード 職員会議議事録
10-5-6 過去3年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させていないか	3	十分とはいえない。	不法滞在として除籍処分とした学生が若干いる。また資格外活動に関しては、学校届けは28時間以内としているが超過して行っていると見受けられる学生がいる。	資格外活動の28時間以内勤務の周知、調査の徹底と、不法残留にさせないための通常の生活状況の把握をいかに的確にするのか、方法をもっと検討すべきである。	入管適正校通知
10-5-7 除籍、退学、修了、卒業で帰国予定となった学生の帰国確認を適時行い、それら出国確認の書類を適正に管理しているか	5	適正に管理している。	全修了・卒業生に対し、確実に帰国確認と進学確認をしている。	今後人数が増えた場合に同じように帰国確認がすべて出来るか、方法と手順をさらに検討すべき。	帰国後のご案内 パスポート出国印、穴の開いた在留カードコピー（写真） 退学者リスト

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
<p>入国、在留関係に関する指導に関しては事務局を中心に全職員が在籍する学生に対して確実に日々注意をしている業務となっている。</p> <p>入学時のオリエンテーションでしっかり伝達はするものの、後は個人指導となるため、これらを常に意識させるためには研修等で勉強した、国内の犯罪、在留知識を職員へ共有するだけでなく、留学生たちにも伝達できるようなオリエンテーションを入学時以外にも開催できるよう検討できるといいと感じる。これらを学生も含み、全員が理解することで出席不良者の減少、また不法滞在者なども撲滅などに繋がるよう学校全体の姿勢として図れるよう検討したい。</p>	<p>問題学生の共有の仕方、また、段階をおった指導の仕方など、職員によって差がどうしてもあるため、それらの指導の仕方を含め意識改革も、すべて計画的に進められるよう、検討すべきだと感じる。</p>

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

## 基準 1 1 教育成果

点検大項目総括	課題及び改善内容
<p>○成果の判定として、卒業、修了の判定、また EJU・JLPT の結果把握は、今後の自分たちの授業のやり方を決定付ける反省材料として重きを置いている。年々学生のニーズが変更しており、時代についていくためには学生が何を求めまたどんな結果を欲しがるとかを随時把握することから始まり、結果として出すための授業への工夫は日本語学校にとって最大のミッションであると考えている。</p> <p>○卒業生の状況の把握は、一部の学生は進学、就職するたびに学校へ報告してくれるが全員がそうではない。</p>	<p>○非漢字圏国籍の在籍率が高い中、一定の成果がなかなか出せれず、何が悪いのか、まさに授業内容の検討の段階に入ってきていると感じる。学生のニーズにも応えながら、結果を出すために決められた時間で講師が何を指導できるか、今一度検討が必要。</p> <p>○今後どのように情報をつかむかは検討しなければならないと感じる。</p>

## 11-1 成果の判定

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
11-1-1 進路及び卒業・ 修了判定が適切に行わ れているか	5	適切に行われている。	期ごとに行う期末テストの 結果で最終的に本人が困ら ないよう、途中指導も入れな がら卒業・修了に持っていつ ている。	レベルの上がない学生の 最終最低到達点の設定など、 検討をした方がいいかと考 える。	期末テスト結果 修了届け 卒業・修了証
11-1-2 EJU、JLPT 等 の外部試験結果を把握 し、適切に管理されて いるか	5	適切に管理している。	それぞれの全国平均を取っ たり、校内平均を取ったり し、今後の受験指導にも当た っている。	今後も継続。	EJU・JLPT 成績結果デ ータ

\* 5..完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
入学試験の可否・入学許可証の有無、内定通知書、帰国チケットなど、卒業判定に必要な書類を漏れなく回収している。また、外部試験の願書、受験票、結果は全学生から回収し、保管している。	修了時の進学先のいろいろな情報データ、帰国時の情報データなどは確実に回収して保管しているが、今現在担当者1人が行っているのではどの学生に対してもすべて同じ回収が出来ている。今後、事務担当者が増えることで、それぞれの意識の差で回収物に差が出ることがないように、徹底指導し、学校としての回収物に漏れがないよう、一覧管理が系統的に出来るよう、検討を図りたい。

## 11-2 卒業生の状況の把握

点検小項目	*点検の 進み具合	ア 現状認識・評価等	イ アの根拠	ウ 課題とその解決方向	参考資料
11-2-1 卒業生の状況を把握するための取組みを行っているか	4	十分とはいえない。	卒業直後の学生の状況は把握しているが、年数が経つ学生については、追っていない。	卒業生同窓会を行うなど、検討したほうがいい。	進路データ
11-2-2 卒業後の進路を把握しているか	3	十分とはいえない。	学生から報告があり把握することもあるが、積極的な把握には努めていない。	卒業生同窓会を行うなど、検討したほうがいい。	退学届 入学許可書・雇用契約書・帰国チケット 進路データ
11-2-3 進学先、就職先等での状況や、卒業生の社会的評価を把握しているか	2	十分とはいえない。	学生から報告があり把握することもあるが、積極的な把握には努めていない。	卒業生同窓会を行うなど、検討したほうがいい。	特になし

\* 5.完璧 4.かなり進んでいる 3.普通 2.やや足りない 1.ほとんど進んでいない NA.当てはまらない

総括	課題及び改善内容
卒業生の卒業直後の進路先や帰国状況の把握は、卒業判定とも合わせてほぼ実行できている。卒業後の把握は全員十分とは言えない。	卒業生の情報収集は、なかなか難しい問題であるが、同窓会発足など検討しなければならないと感じる。そうすることで、先の進学、就職、などの情報の収集、また在籍する学生への指導へとつなげられると思う。卒業生情報のデータ管理をシステム化することも一考したい。

最終更新日付	2017年3月31日	記載責任者	井尾 美穂
--------	------------	-------	-------

「出入国及び難民認定法」内の日本語教育機関の告示基準の改定により、日本語教育機関の「学校評価」が義務化されたことを受け、教育の質保証・向上に資するという観点から本校においても「学校自己点検・自己評価報告書」を作成した。

平成28年度の報告書に関しては、日本語教育振興協会の「日本語学校における学校評価ガイドライン」を参考に学内に設けた委員会で議論を重ねた結果、以上の通り自己点検・自己評価報告書を作成した。

International Study Institute 中京自己点検・自己評価報告書を作成するにあたり学内に設けた委員会のメンバーは以下のとおりである。

平成29年3月

International Study Institute 中京 自己点検・自己評価委員会

校長	荻野	正昭
事務局長	井尾	美穂
事務局	坂井	朗子
教務主任	時田	繭子
教務	遠藤	彩
入学相談センター部長	高山	むつ実